

環境にやさしいまちや住まいをつくります

都市の自然環境の保全・再生に努めます

都市生活の潤いとなる緑や水の豊かな環境を確保し、地域の自然と調和したまちづくりを進めています。

○UR賃貸住宅の屋外空間における緑の確保

UR賃貸住宅の屋外整備では、多くの緑地を創出・再生しています。平成23年度は新たに高中木約1万4千本を植えました。

また、UR賃貸住宅の建替えでは、長い年月を経て豊かに生長した緑を保全しています。平成23年度には153本を現況保存し、372本を移植樹木として活用しました。

「彩の国みどりのプラン賞受賞」コンフォール鶴瀬

コンフォール鶴瀬（埼玉県富士見市）では、団地の建替えにあたり、お住まいの方々と屋外の計画段階から「みどりのワークショップ」を通じて、地域の資産や歴史を継承した憩いの場の創出などを検討し、建替計画に反映しました。特に地域に親しまれたケヤキやコナラなどの大きな樹木の保存や、地区内の旧小学校の風景を再現する水辺の整備、団地内のオープンスペースをつなぐ桜のプロムナードを整備したことで、地域の方のコミュニケーションの場として喜ばれています。また、中央の集会所の前には、「コンフォール鶴瀬花を愛する会」による共同花壇が設けられ、道行く人々の目を楽しませています。このような地域のみどりに貢献する緑化計画が高く評価され、「彩の国みどりのプラン賞」を受賞しました。



ワークショップの様子



花を愛する会の活動風景



地域の自然環境との調和を図った屋外空間

○生きものとふれあえるビオトープの創出

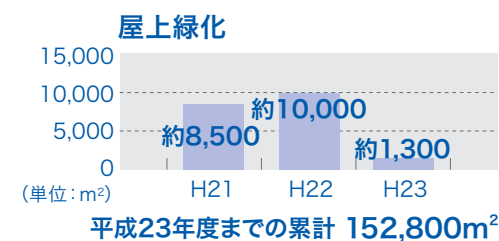
ビオトープは、自然環境が少ない都市において、生きものの生息空間を計画的に整備し、地域生態系の保全・再生に寄与します。UR賃貸住宅では、これまで既存林の活用や水辺の整備など様々なタイプのビオトープを創出してきました。平成17年度からは、供用開始から一定の年数が経過したビオトープを対象に植物や昆虫、鳥類などの生息状況について調査を行っています。平成23年度は1箇所で行った調査を実施し、目標としている種の生息が進んでいることが確認できました。

○屋上緑化による緑の創出

屋上緑化は、建築物の屋上や人工地盤を緑化することで身近な緑の空間を提供し、都市部のヒートアイランド現象を緩和するものです。UR都市機構では平成5年度から薄層土壌による屋上緑化の技術開発を行い、平成23年度には浜甲子園団地（兵庫県西宮市）などで屋上緑化を行いました。

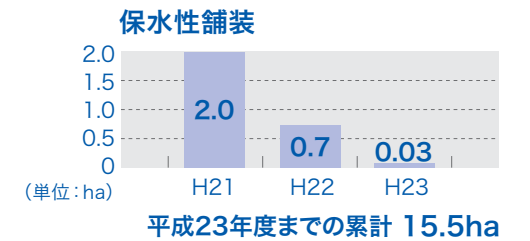


屋上緑化（浜甲子園団地/兵庫県西宮市）



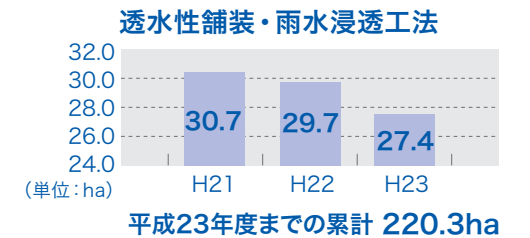
○保水性舗装によるヒートアイランド対策

保水性舗装は、舗装材が一時的に雨水を蓄え、その雨水が蒸発する際の熱吸収効果によって路面温度の上昇を抑制する機能があります。この機能により、日中の路面温度の上昇抑制や、路床部分の蓄熱量低減による夜間の放熱抑制で、ヒートアイランド現象を緩和することが期待されます。



○透水性舗装、雨水浸透工法

UR賃貸住宅やニュータウンでは、通路や駐車場などの舗装に浸透性の高い透水性舗装を採用しています。排水性が高く路面に水溜りをつくりにくい、歩行性・走行性の向上が図れるほか、浸透トレンチや浸透枳などの雨水浸透施設と組み合わせることで、降った雨水を極力地下へ浸透させ、下水道や河川への集中的な流入を抑えることができます。また地下水の涵養を通して地域の水循環が確保され、生態系の維持につながるなど、総合的に環境負荷を低減しています。



○ニュータウン整備における取組

ニュータウン整備では、開発前の地形を活かすことで土地の造成を少なくし、地域の貴重な屋敷林や斜面林などを公園や緑地として保全・活用するなど、身近な自然環境と調和した計画的なまちづくりに取り組んできました。平成23年度はニュータウン整備によって約15haの公園・緑地を保全・創出しました。

「うるいど自然公園」で開園記念植樹祭を開催

UR都市機構が市原市から受託して整備を行った「うるいど自然公園」（千葉県市原市）で3月4日（日）に開園記念植樹祭を開催しました。「うるいど自然公園」は、UR都市機構による土地区画整理事業である「潤井戸地区」内にあり、現況の谷と斜面林の地形や湧水を残し、せせらぎや池として活用した広さ6.4haの公園です。当日は、親子合わせて100名程の方々に参加いただき、クヌギやコナラ、ヤマザクラなどの苗木の植樹、間伐材を用いた「樹名札」づくり、工事現場の事務所に避難していた水生生物の放流をしました。参加した方々からは「開園時に自分の作った樹名札がどこにかかっているか探しに来たい」、「どんな生き物が見られるか楽しみにしています」など、地域に生まれた新しい公園の完成を心待ちにする声が聞かれました。その後、4月に開園し、地域の皆さまに親しまれています。



植樹の様子



公園の池へ生き物を放流

○地方公共団体からの要請に基づく都市公園整備

都市公園は緑と身近にふれあえる憩いの場として、良好な都市環境を形成する重要な都市施設です。UR都市機構は、地方公共団体からの要請に基づき、都市公園を整備しています。平成23年度は、9箇所で行った整備を実施しました。

環境にやさしいまちや住まいをつくります

まちや住まいの省エネルギー化を進めます

省エネ設備の導入や新エネルギーの活用により、地球温暖化対策に取り組んでいます。

○次世代省エネルギー基準による住宅供給

UR都市機構は、昭和40年代より結露対策や冷暖房負荷の軽減に取り組んできました。現在では、新規に建設する住宅は、省エネルギー法に定められた努力目標基準である次世代省エネルギー基準（平成11年基準）と住宅性能表示制度における省エネルギー対策等級の最高ランク基準とをそれぞれ満たしています。

○省エネ機器の設置

①高効率照明の導入

●LED照明

コンフォール松原（埼玉県草加市）など建替えにより新規に建設されたUR賃貸住宅2団地で、共用廊下や階段にLED照明を全面的に採用しました。また 船堀一丁目（東京都江戸川区）など既存UR賃貸住宅159団地の共用部（共用廊下や階段、屋外部分等）の照明器具を、取替え時期に合わせて順次LED照明に切り替えています。既存UR賃貸住宅では、平成22年度末から実施しており、概ね10年間ですべてを交換する計画です。

共用廊下やエントランスに取り付けられたLED照明（コンフォール松原/埼玉県草加市）



建物外観



エントランス

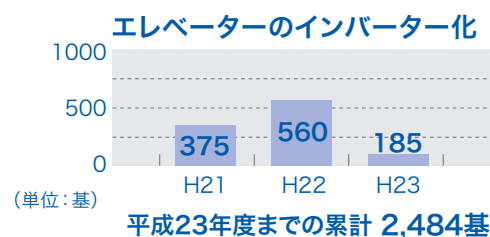
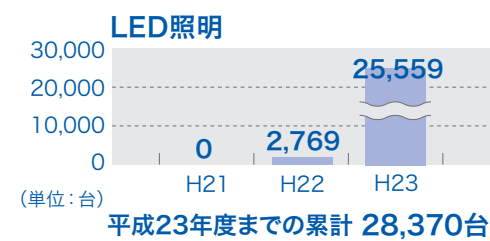
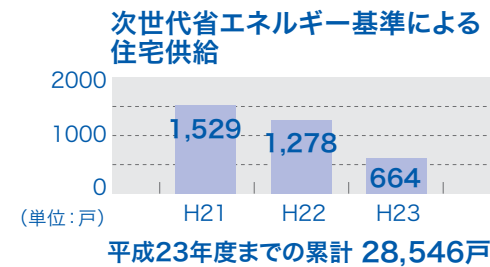


屋外

②エレベーターのインバーター化

UR賃貸住宅では、着床時にかご床面と停止階床面に段差が生じやすいエレベーターを、インバーター制御システム※に改良しています。この改良により、乗り心地の改善や段差の解消が可能となるだけでなく、エレベーター昇降時の消費電力を約35%削減でき、大きな省エネ効果が期待できます。

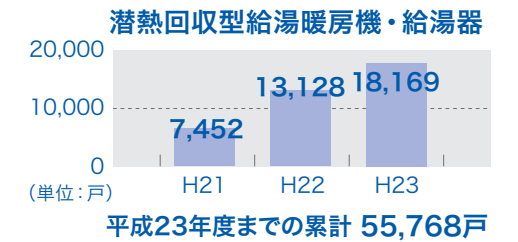
※インバーター制御システム モーターが運転と停止を繰り返す従来の制御方法に比べ、スムーズなモーター制御によりエネルギー効率のロスを低減します。



③潜熱回収型給湯器の導入

潜熱回収型給湯器は、従来のガス給湯器では捨てられていた排気中の潜熱を、水の予備加熱に再利用するエネルギー効率の高い給湯器です。

新規に建設されるファミリー向けのUR賃貸住宅に標準的に設置しているほか、既存のUR賃貸住宅の一部においても、給湯器の取替えの機会等に設置しています。

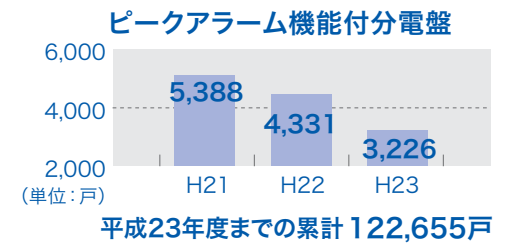


④ピークアラーム機能付分電盤

UR賃貸住宅では、各戸の電気使用状態を表示し、音声警報により電気の使い過ぎをお知らせするピークアラーム機能付分電盤を新規の住宅建設やリニューアルなどの機会に設置しています。



ピークアラーム機能付分電盤



○太陽光発電の導入

UR賃貸住宅では、太陽光パネルを建物の屋上などに設置して、発電した電力を共用廊下などの照明や集会室の空調電源などに利用しています。平成23年度はシャレール海岸通（神奈川県横浜市）など3地区に設置しました。これまでに約387kWの太陽光発電設備を設置し、年間約39万kWhの発電量を見込んでいます。また、ニュータウンの整備においても、越谷レイクタウン地区（埼玉県越谷市）などの公園等で太陽光発電を採用しています。



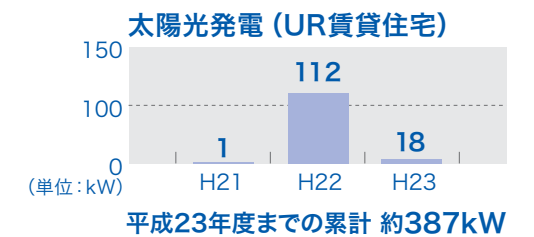
建物屋上の太陽光発電(シャレール海岸通)



ソーラー照明灯(越谷レイクタウン地区)



ソーラーフットライト(越谷レイクタウン地区)



環境にやさしいまちや住まいをつくります

資源の有効利用と廃棄物の削減に努めます

まちや住まいづくりのあらゆる場面において、限りある資源を有効利用し、建設副産物の3Rに取り組むことで環境負荷の低減を図っています。

○建設副産物の3Rの推進

昭和63年から団地の建替えに伴って発生する建設副産物の3R※の取組を積極的に行っています。コンクリート、アスファルトコンクリート、木材については、国の「建設リサイクル法基本方針」で設定されている、平成23年度における再資源化等率95%という目標値を、平成16年度からすでに達成しています。

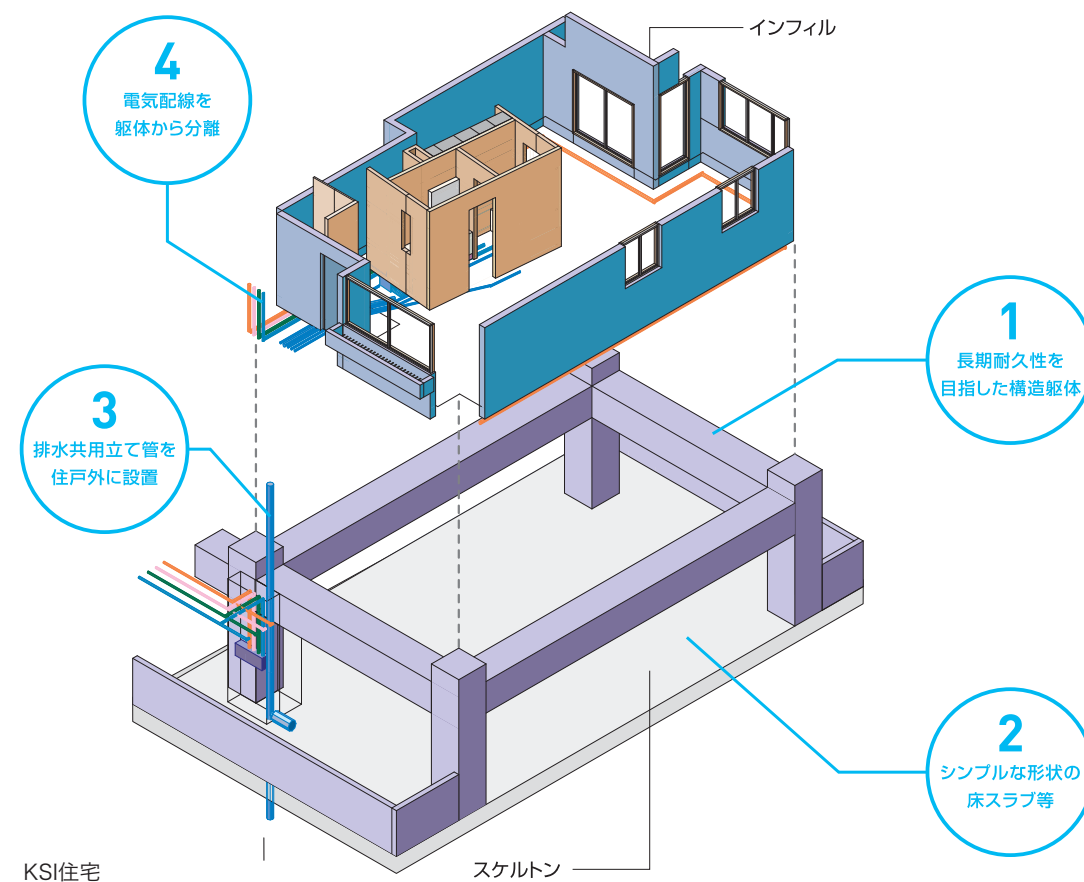
3Rの取組として、平成23年度は、解体工事を実施した13団地において、分別解体を積極的に行い、廃棄物の削減及び建設副産物の再資源化に努めました。

※3R Reduce（排出抑制）、Reuse（再使用）、Recycle（再生利用）

○KSI住宅システムの導入

省資源、廃棄物の削減に資する機構版スケルトン・インフィル住宅システム（KSI住宅システム）を開発し、都心部ならびに超高層住宅に導入してきました。

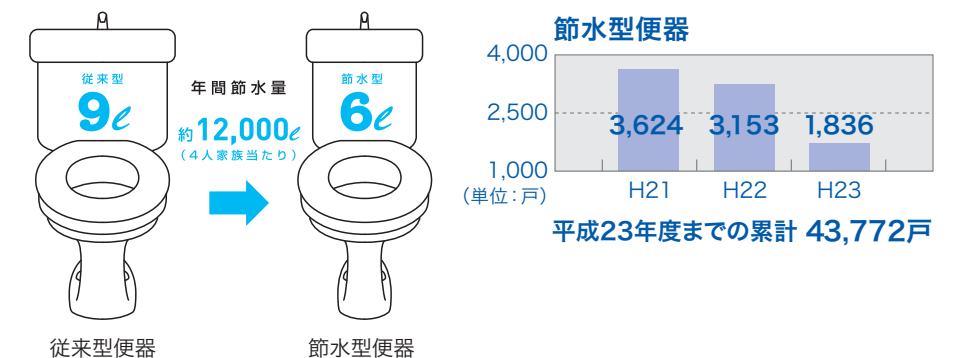
KSI住宅とは、集合住宅の骨組みである躯体や共用設備（スケルトン）と住宅専用の内装や設備（インフィル）とを明確に分離し、躯体の耐久性及び内装の可変性を高め長期使用を可能とした住宅です。



○省資源設備の設置（節水型便器）

新規に建設するUR賃貸住宅では、従来の便器（9ℓ/回）に比べ水の使用量を2/3に低減できる節水型便器

（6ℓ/回）を標準的に設置しています。これにより、4人家族で年間約12,000リットルの節水が見込まれます。住戸に供給される上水は、給水の過程で送水ポンプの動力などにエネルギーを使うため、節水はCO₂排出量の削減にも効果があります。



UR賃貸住宅の長期利用に資する住棟改修 -「たまむすびテラス」のまちびらき-

ルネッサンス計画2「住棟ルネッサンス事業」は、団地再生事業の新たなメニューとして、民間事業者の創意工夫を活かし、UR賃貸住宅とは異なる多様な住宅や子育て・高齢者施設等として再生・活用することで団地や周辺地域の魅力向上を図ることを目的とした事業です。



▲りえんと多摩平団地型シェアハウス
事業主：東電不動産㈱ 2棟（平成23年3月完成）



▲ゆいま〜る多摩平の森
事業主：㈱コミュニティネット 2棟（平成23年8月完成）

◀AURA243多摩平の森
事業主：たなべ物産㈱ 1棟（平成23年6月完成）

多摩平の森（東京都日野市）では、民間事業者3者に建物を賃貸し、民間事業者が「団地型シェアハウス」、「菜園付き共同住宅」、「高齢者専用賃貸住宅」に改修して再生を行いました。

平成23年5月には、団地型シェアハウスである「りえんと多摩平」に合計15名のUR職員が1週間の体験入居を行いました。

また、平成23年8月には全ての区画が完成し、一般公募で決定した名称「たまむすびテラス」という街全体としての、まちびらきイベントを開催しました。当日は、中央大学吹奏楽部による演奏会、美術系大学生によるアートイベント、フリーマーケット、団地の写真展やスタンプラリーなどのイベントを用意して地域住民の方々に楽しんでもらいながら、新しい団地再生について知っていただきました。



まちびらきセレモニーの様子



まちびらきイベントの様子

環境にやさしいまちや住まいをつくります

皆様と一緒に環境に配慮したライフスタイルを考えます

ひとりひとりが日々の暮らし方や意識を変え、環境にやさしいライフスタイルを選択するための様々な支援をしています。

○UR賃貸住宅にお住まいの方への環境配慮の呼びかけ

UR賃貸住宅にお住まいの方が日常生活で排出されるCO₂の削減にも取り組んでいます。

特集 (p14) でご紹介しましたように、バルコニーでの緑のカーテン栽培キットを提供し、159団地、約5,800戸の住宅で緑のカーテンづくりを支援いたしました。また、住宅内の電気の使い過ぎをお知らせするピークアラーム装置の節電に役立つ利用方法の案内や、ご家庭での節電を推進するためのコンテストを開催するなど、UR賃貸住宅にお住まいの方に環境への配慮を呼びかけています。

地域参加型の環境配慮への取組 -地元小・中学生による壁画作成プロジェクト-

勝田駅東口地区（茨城県ひたちなか市）では、再開発ビル建設現場の工事用仮囲いに、市内の小・中学生の描いた絵を壁画として展示しました。壁画は、市内11校の小学校三年生を中心に約1,300名が描いた「ひたちなか市の豊かな自然＝海の生き物たち」と、市内5校の中学校美術部員が自由な発想で描いた絵をスキャナーで読み込み、シートに印刷加工したものを貼りつけて展示しました。

このプロジェクトは児童やその家族に再開発事業を身近に感じてもらうとともに、建築現場の景観保持、事業のPR及びイメージアップを図ることを目的として実施しました。駅利用者や周辺住民の方々からは、総延長100メートルの壁画により、再開発事業の工事で塀に囲まれている駅前空間が明るく楽しい場所になったと好評を得ました。



全景



小学生の壁画

○環境にやさしいライフスタイルを支援する施設

地域の方々とともに自然環境とのふれあいや環境にやさしい暮らしを培い継承していくことを支援したいと考えています。

UR賃貸住宅の一部では、身近に土や緑とふれあえる場として、四季折々の草花をお住まいの方が共同で育てる共同花壇や周辺の緑環境との連続性を考慮して整備しています。

周辺の緑環境との連続性を継承した団地再生（ヌーヴェル赤羽台）

平成22年に竣工したヌーヴェル赤羽台（東京都北区）は、「平成20年度超長期住宅先導的モデル事業」に採択され、評価された先導的提案の実現に取り組んでいます。既存樹木の再利用、郷土在来種の地域植物の多用、旧赤羽台団地の大切な資産である花木園を引き継ぎながら、これと連続したフラワーコート有しており、住まう人が愛着を感じられるような工夫がされています。



ヌーヴェル赤羽台

団地内コミュニティの継承と発展情報提供

赤羽台団地では、自治会を中心に集会所の活用や夏祭りなどのコミュニティ活動が盛んであり、建替え設計にあたってはコミュニティの継承と発展がテーマとなりました。

ヌーヴェル赤羽台では、集会所などコモンスペースを団地の中心部となるイチヨウ通りに据え、その設計にあたっては、居住者の方との意見交換を行っています。イチヨウ通りの両側には、広さや設えの異なる多くの集会室があり、人々の目的に応じた利用ができます。また、イチヨウ通りは、隣接する開放的な中庭とともに、夏祭りの新たな会場となります。これらのコモンスペースが、古くからの住民とこの地に魅かれ転居してきた新たな住民による「地域の絆」をより強固なものとするための基盤となることを期待しています。



住民が集う夏祭り

○「新・郊外居住」の取組

UR都市機構では、ニュータウンの整備を通して、そこに住む方々が緑や水などの地域の豊かな環境資源と積極的に関わりながら、環境を育むことができる郊外型のライフスタイルを提案する「新・郊外居住」に取り組んでいます。

農業や里山管理の体験会などを通じた新旧住民の交流の促進、里山を管理するNPOの発足支援、地域にお住まいの方々による自発的な緑地の管理活動支援、小学生などを対象とした環境教育の実施など、地域の特性に応じた自然と共生したまちづくりを進めています。

また、低炭素型社会の実現のため、自動車に過度に依存しない交通計画や効率的なインフラの整備など、これまで培ったまちづくりの手法を最大限に活かし、地元の方々や、まちづくりにかかる民間事業者・行政と連携した取組を行っています。

農(みのり)のまちづくりプロジェクト

木津中央地区「城山台」（京都府木津川市）では、地域と連携する環境未来都市のまちづくりモデルとして、「農（みのり）のまちづくりプロジェクト」が始動しています。

木津川市の豊かな自然や盛んな農業、さらには歴史や文化などの資源を活かし、都会的な暮らしの中に、菜園づくりや里山活動、都市と農村の交流などを通じて、コミュニティの絆を深め、安全安心で潤いのあるライフスタイルを提案します。

城山台では、地元農家の方々、JA京都やましろ、有識者、京都府、木津川市を交えて、「木津エコリジョン協議会」を発足し、「農づくり」「風景づくり」「くらしつながり」といった3つのテーマを掲げ、その実現策について協議検討を重ねています。



農(みのり)づくり

～地産地消や里山里山の地域資源を通じた、都市と農村の交流による文化の継承と絆づくり～

- 里山を守るNPOとともに貴重生物の保全活動を継続的に実施
- 地産地消に資する拠点誘致や新旧住民の交流促進の場の提供

風景づくり

～街路や公園での桜の植樹やシンボリックな景観づくり～

- 市の木「桜」をアイポイントに配植した風景づくり「桜八景」植樹開始
- 「実のなる木」を街区公園に採用
- 小学校のエコスクール化（平成26年春開校予定）

くらしつながり

～家庭菜園、住民による公園管理、インターネットでの住民交流を盛り込んだ魅力あるくらし～

- 家庭菜園による自産自消のライフスタイルの提案
- 住まい手の愛情によって管理されるアダプト制度を活用した公園
- SNSサイトによるコミュニティ形成の場の新設（農つながりクラブ開設）

当地区には京都大学の新農場の進出が計画されているほか、平成24年度にはいよいよ初期入居が始まります。

○環境性能及び品質確保に関する取組

建築工事や土木工事などに、施工、工事監理、検査業務に関する技術基準を策定し、それらに則った厳しい品質確保を行っています。また、新規に建設するUR賃貸住宅では「住宅性能表示制度」による第三者評価を取得しています。住宅性能表示の実施について、募集パンフレットなどへ設計住宅性能表示を記載し、お客様への情報提供に努めました。

今後は、「建築物総合環境性能評価システム（CASBEE）」等による評価・公表など環境性能向上の取組を進めます。

○既存樹木の有効活用（グリーンバンクシステム）

UR賃貸住宅の建替えの際に既存樹木の有効活用を積極的に行っています。長い年月をかけて育ってきた団地内の貴重な緑を活用するグリーンバンクシステムは、専門家による樹木調査やお住まいの方々を行う樹木見学会の結果などをもとに、既存樹木を極力そのまま保存する、移植して同じ地区内で活用する、他の地区に移植して活用するなど様々な事業において有効活用を進めています。伐採せざるを得ない樹木についても、木材をベンチ用材などに加工して再生利用を行っています。平成23年度は保存樹木として153本、移植樹木として372本を活用しました。

また、現況樹木を活用することを条件とした土地譲渡を実施するなど、譲渡先の地方公共団体や民間事業者との連携による既存樹木の有効利用にも取り組んでいます。平成23年度は2本を保存樹木としてご活用いただきました。



移植樹木（クスノキ）
（浜甲子園団地/兵庫県西宮市）

○職員の環境意識向上の取組

職員への環境に関する最新の情報を提供する機会として、「都市環境セミナー」を本社や支社で計7回開催しました。

セミナーには延べ300人を超える役職員が参加し、低炭素社会の動向や、最新の研究成果、UR都市機構へ期待されることなどについて第一線で実務や研究に携わられている講師の方々と意見を交わし、見識を深めました。平成23年度は新たに事例見学を加え、先進的な環境配慮に取り組むオフィスや再生可能エネルギーを活用する施設の視察を行いました。

また、経営幹部等を対象にした講演会、新規採用職員研修や中途採用職員研修、各種業務研修において環境配慮や地球温暖化対策に関する講義等を行うなど、役職員の環境意識向上に取り組んでいます。



第2回都市環境セミナーの様子



第4回都市環境セミナー
（株）パソナグループ本社視察）の様子



経営幹部向け講演会で講演をされる
月尾東京大学名誉教授
講演テーマ「地球環境時代の都市・住宅戦略」

平成23年度 都市環境セミナー・サマリー

第1回 株式会社エックス都市研究所 山田芳幸 氏

「夏季電力不足対策」 2011/6/28

電力不足が予想される夏季の節電に向けて、家庭における電力使用の実態の紹介や、UR職員が自宅で取り組める節電のポイント、家庭から地域全体のCO₂削減につなげる取組、家庭の省エネ診断の実施例などについて、ご講演いただきました。

第2回 東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 教授/大西隆 氏

「震災復興と環境都市づくり」 2011/9/20

東日本大震災復興構想会議において取りまとめられた「復興への提言～悲惨のなかの希望～」についてご紹介いただき、被災自治体の復興まちづくりに向けての課題やご提案、そして東日本大震災と環境問題の取り組み方策について、ご講演いただきました。

第3回 株式会社パソナグループ 本部

「企業における環境配慮取組の先進事例視察」 2011/11/25

自然との共生をテーマに、「アーバンファーム」として都心オフィスの室内で、果物や野菜を育てられている様子や屋上緑化・壁面緑化について視察し、そのコンセプトである「働く人の健康」「農業」「エコ」について、また社員自らによる植物管理などについて紹介していただきました。

第4回 かわさきエコ暮らし未来館（浮島太陽光発電所）・川崎バイオマス発電所

「再生可能エネルギー施設の先進事例視察」 2012/3/21

再生可能エネルギーを創出している現場として、太陽光発電で7000kWを出力する太陽光発電所と、建築廃材等の木質バイオマス燃料で発電する国内初の都市型バイオマス発電所を視察し、その仕組みや課題などについて解説していただきました。

中部支社開催 名城大学 都市情報学部 都市情報学科 教授/海道清信 氏

「人口減少時代の新しい都市づくり」 2012/2/17

「低炭素都市なごや戦略実行計画」における低炭素都市像の解説や、名古屋市の他、金沢市、富山市、デトロイト（アメリカ）、コトブス（ドイツ）等様々な国内外の事例を挙げいただきながら、人口減少・高齢化時代における日本での都市のコンパクト化のあり方について、ご講演いただきました。

西日本支社開催 京都大学大学院 工学研究科 建築学専攻 教授/鈴木修一 氏

「住空間における快適性と消費エネルギー量の低減」 2012/2/28

住宅の吹き抜け空間による通風やドラフトなどの温熱環境への影響、暖房器具や入浴による寒さ対策、給湯の使い方やカーテン・窓の開閉など居住者の調整等、設備を上手く使いこなすライフスタイルによるエネルギー消費コントロールについてご講演いただきました。

九州支社開催 九州大学大学院 人間環境学研究院 教授/赤司泰義 氏

「居住からの変革 “ハビタット・イノベーション”」 2012/2/20

東日本大震災で明らかになった省エネルギーの必要性をもとに、ハビタット（居住）工学の視点から、環境に負荷を与えない居住のあり方について、分析された課題を解説いただき、九州大学での取組をご紹介していただきました。

環境に配慮して事業を進めます

環境に関して皆様とコミュニケーションを深めます

UR都市機構は環境配慮の取組を公表し、持続的発展が可能なまち・住まいづくりを皆様と共に考えます。

○社会貢献活動の実施

●技術研究所（東京都八王子市）の一般公開

技術研究所では、集合住宅や都市再生に関する様々な技術開発や実験・研究を行っています。その成果を専門家だけでなく一般の方々にも広く紹介するため、毎週火曜日、水曜日、木曜日及び第2、4金曜日に施設の一般公開を行っています。平成23年度は、年1回行っている特別公開日を含め、3,015人の来場があり、このうち海外からは12ヶ国、153人の方にご来場いただきました。

なお、一般公開については事前のご予約をお願いしております。申し込み方法など詳しくは次のホームページをご覧ください。(http://www.ur-net.go.jp/rd/)

●技術研究所の特別公開

特別公開は、技術開発の取組や調査研究等の成果を幅広く一般の方々に知っていただくため、年1回開催しているものです。平成23年度は5月20日（金）・21日（土）の2日間開催しました。公開施設は、KSI住宅実験棟、住まいと環境館、地震防災館、集合住宅歴史館、環境共生実験ヤード等に加え、通常公開していない振動実験棟、風洞実験棟も公開しました。公開に当たっては、「明日の団地を考える 安心・快適・エコライフ」をメインテーマに各種イベントを開催し、公田町団地（横浜市栄区）で行われている高齢者の見守りに関する「見守り安心ネット公田町プロジェクト」についての中間報告、ひばりが丘団地（東京都西東京市）及び向ヶ丘第一団地（堺市西区）の住棟単位での改修技術開発「ルネッサンス計画1」の検証についての報告を行いました。

当日の参加型イベントは、「高齢者になったら・・・！」をテーマに、高齢者模擬体験で高齢社会について考えていただきました。学生を対象としたイベント「こんな団地にあったら楽しいよ!!」では、「明日の団地を考えるールネッサンス計画への提言ー」というテーマで団地の魅力向上につながるアイデアの募集を行いました。2日間で参加者29名、20作品の応募をいただき、大変好評なイベントとなりました。また、小・中・高校生を対象としたイベント「ペットボトルソーラーカーの作成!」では、ペットボトルに太陽光パネルやモーター、車輪等を取り付けて走らせて、太陽光発電エネルギーを体験していただきました。



屋上緑化の公開風景



ペットボトルソーラーカーの作成

●研究報告会

技術研究所では、調査研究・技術開発などの成果を社会へ還元するため、毎年研究報告会を実施しています。平成23年度は「まちと共に生きる団地～安心・快適・エコライフ～」をメインテーマに、有識者の方々から、団地の魅力や役割などについて特別講演をいただきました。

また、技術研究所及び本支社の職員からは、UR都市機構が取り組むまち・住まいづくりや環境負荷低減技術に関する調査研究や事業の報告が行われ、東京、名古屋、大阪、福岡の4会場であわせて995人の方々にご来場いただきました。

東京会場

日 時：平成23年10月26日[水]

場 所：津田ホール

特別講演：縮小社会に向けて：団地を地域の拠点にする
千葉大学工学部都市環境システム学科教授
小林秀樹氏

名古屋会場

日 時：平成23年10月21日[金]

場 所：電気文化会館イベントホール

特別講演：人口減少時代に対応した都市と団地のかたちとは？
名古屋大学大学院環境学研究科
都市環境学専攻准教授 加藤博和氏

大阪会場

日 時：平成23年10月20日[木]

場 所：テイジンホール

特別講演：「住みこなし」が生活を豊かにする
近畿大学建築学部建築学科講師
佐野こずえ氏

福岡会場

日 時：平成23年10月19日[水]

場 所：NTT夢天神ホール

特別講演：低炭素社会を目指す～なぜ、どのように～
福岡大学法学部教授
浅野直人氏

○地域やお住まいの方とのコミュニケーション

UR都市機構は、地域や団地にお住まいの皆様と一緒に、暮らしの中における様々な取組を行っています。

全国団地景観サミット2011「UR賃貸住宅団地景観フォト&スケッチコンテスト」の開催

全国の美しい「団地景観」が一堂に会することを「サミット」になぞらえた、「全国団地景観サミット」は、今年で第4回目となりました。2011年は、人と人をつなぐ団地ーそこにある風景ーをテーマとして「UR賃貸住宅団地景観フォト&スケッチコンテスト」を開催し、全国から683作品のご応募をいただき、厳選なる審査のうえ54点の入選作品を選出しました。活き活きとした団地での暮らしや、四季折々の豊かな団地景観など、団地の魅力を表現した作品を多数お寄せいただき、皆様からお伝えいただいた団地に対する視点や思いは、今後の住まいづくりに活かして参ります。(写真は、フォト大賞・スケッチ大賞の2作品)



フォト大賞「手伝いたいの」



スケッチ大賞「冬の朝」

地元小学校へへの出前授業（金田東地区／千葉県木更津市）

UR都市機構が区画整理事業を施行する金田東地区は、アウトレットをはじめ多くの企業が進出を予定しています。このように、大きく変化を遂げつつあるまちを知ってもらうため、平成23年7月、地元の金田小学校の児童を対象に、出前授業を行いました。

教室では、金田のまちづくりがどのように行われているかについて、ヴァーチャル映像を交えて説明し、現場では、生活を支える道路や下水道等がどのように造られているかを見学してもらいました。また、キャリア教育の一環として、仕事を選んだ経緯や仕事のやりがいについて紹介し、「働く」ということを学ぶきっかけづくりを行いました。



授業の様子



調整池見学の様子